

## News Release

報道関係各位

令和6年10月31日  
特定非営利活動法人みやぎセルプ協働受注センター

名取市内の障害者就労支援施設による地域農業者との連携した取り組みが実現。

# 11月29日(金)「ノウフクの日」にお披露目を開催！

～福祉・農業双方の課題解決を図る「農福連携」の推進～

宮城県名取市にある障害者就労支援施設「一般社団法人こねくと ラ・フレーズ（以下：ラ・フレーズ）」では、地域の農業従事者と連携した取り組みを展開しております。この度、サツマイモのキュアリング（熟成）設備および貯蔵庫設備の導入と、出荷作業場の完成を記念したお披露目を開催することとなりました。

この活動を通じて福祉・農業双方の課題解決を図る農福連携を推進するとともに、宮城県内に止まらず、首都圏への販路拡大、働く障害者の工賃向上を目指しています。

※本取組は宮城県から委託を受け、「農福連携プラス推進モデル事業」の一環として実施しております。

## お披露目の概要

下記日程でラ・フレーズが所有するキュアリング（熟成）設備貯蔵庫と作業場のお披露目を開催いたします。

【日時】 11月29日（金）13：30～14：30

【場所】 一般社団法人こねくと ラ・フレーズ ハウス作業場  
（〒981-1201 宮城県名取市下増田台林 329）

- 【式次第】
- 1.開会
  - 2.挨拶
  - 3.来賓祝辞
  - 4.出席者紹介
  - 5.工事経過報告と今後の展開
  - 6.施設内覧会
  - 7.閉会



### 【報道機関からのお問合せ】

事務局：特定非営利活動法人みやぎセルプ協働受注センター（担当：格井）

電話：022-399-6299

H P：https://www.miyagi-selp.org/

メール：info@miyagi-selp.org

ノウフク JAS を  
取得しています！



〈特定非営利活動法人みやぎセルプ協働受注センターについて〉

宮城県から事業を受託して、障害者就労支援施設の工賃向上を支援する NPO 法人です。

## 名取市北釜（きたかま）地区とラ・フリーズについて

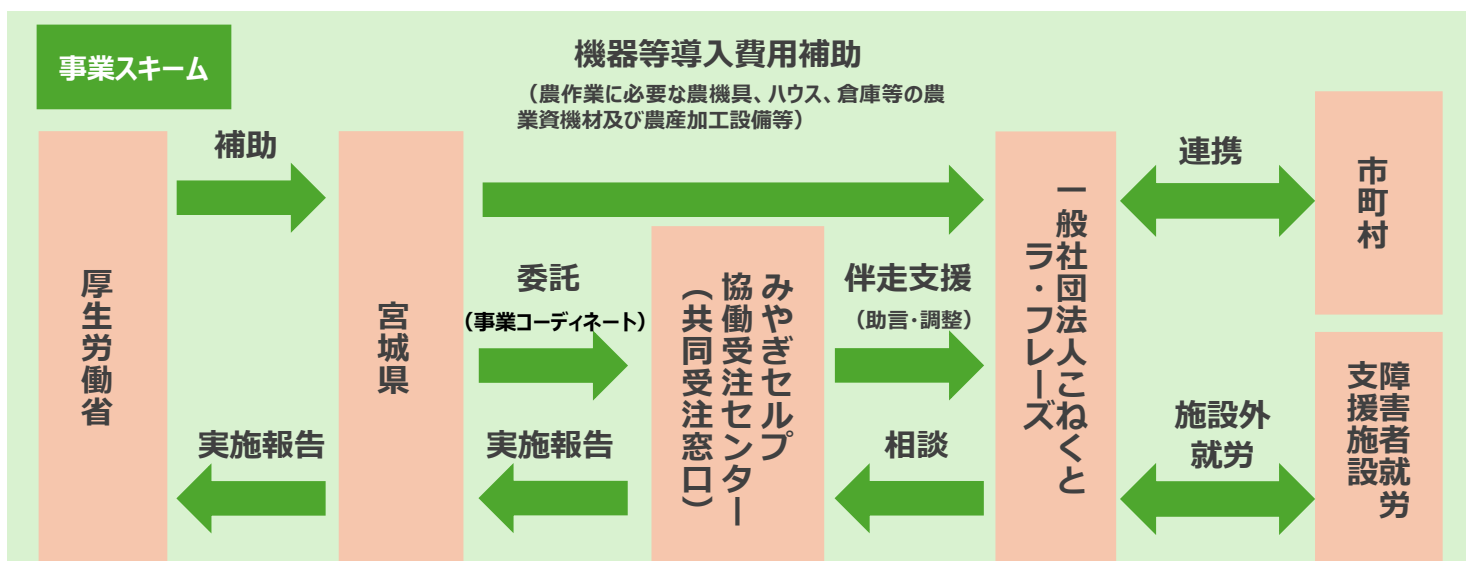
宮城県名取市の沿岸部にある北釜（きたかま）地区は、東日本大震災の影響を大きく受けた土地です。かつては砂地を活用したメロン栽培が有名でしたが、震災被害からの圃場整備の遅れや、農業従事者の高齢化という課題を抱えていました。近年、新たな農業法人の参入も増えるなかで、徐々に活性化が進んでいる状況です。

同地区の復興支援の一環として始まったサツマイモ栽培に施設外就労という形で関わっていたのが、ラ・フリーズです。同じ名取市内でイチゴやブドウの栽培を中心に農作業に取り組んでいる障害者就労支援施設です。現在は自社でもサツマイモの栽培を行っていますが、収穫後の貯蔵庫設備が無いために、サツマイモを熟成させて商品の付加価値を高めることができないという課題に直面します。また、地域の農業者全体の高齢化と人手不足による収穫機会や販売機会の損失も目の当たりにすることになりました。

これらを解決するべく、ラ・フリーズはキュアリング（熟成）設備および貯蔵庫設備の導入と、出荷作業場を保有することにしました。これによって自社のサツマイモだけでなく、地域の農業従事者が収穫したサツマイモの熟成と長期保存が可能になり、付加価値を高めた美味しく長持ちするサツマイモとして出荷することができます。また、サツマイモの計量や袋詰めといった出荷に関わる作業の一端をラ・フリーズが担うことで、農業従事者の人手不足解消と、障害者就労支援施設の仕事の確保にも繋げることができます。

## 農福連携プラス推進モデル事業について

農福連携に取り組む意欲的な障害者就労支援施設に対し、コーディネーターの伴走により、マッチング強化や事業推進及びの立ち上げ等の一体的な支援を行い、通常の農福連携を超え、商工業や観光業と連携しながら、広く農福連携に取り組む施設の模範となるようなモデル事例の創出を図ることを目的としています。



## ノウフク JAS について

農福連携に関する取り組みが拡大していくなかで、生産された農林水産物を規格として定め、その農林水産物が確かなものであることの説明や、ブランド力を高めることが今後さらに農福連携を進展させていくうえで重要となりました。

平成 29 年度の農林水産省による JAS 法改正により、JAS の対象が「生産物の品質」だけでなく、「生産物の生産方式」や「生産物の取扱方法」などにも拡大されることになりました。このように手続きが整備されたことに伴い、農福連携の取り組みによって生産された農林水産物の規格化を図り、平成 31 年 3 月に「障害者が生産行程に携わった食品（以下、ノウフク JAS）」が農林規格（JAS）として制定されることになりました。

※令和 6 年 3 月 1 9 日には一部改正され、新たに認証品目に観賞用の植物が追加されて「障害者が生産行程に携わった食品及び観賞用の植物の日本農林規格（ノウフク JAS）」となりました。

ブランド力の向上と販路の拡大を目指して、ラ・フリーズもノウフク JAS を取得しています。

〈特定非営利活動法人みやぎセルブ協働受注センターについて〉

宮城県から事業を受託して、障害者就労支援施設の工賃向上を支援する NPO 法人です。